

2014



公益財団法人 北九州産業学術推進機構

FAIS

Kitakyushu Foundation
for the Advancement of Industry,
Science and Technology

事業報告書／ANNUAL REPORT

はじめに

公益財団法人北九州産業学術推進機構^{フェイス} (FAIS) は、平成13年に地域の産業を支える知的基盤として開設された北九州学術研究都市を中心に、地域に集積する大学・研究機関と産業界の連携をコーディネートする機関として、また、中小企業・ベンチャー企業の総合的な支援機関として活動しています。

現在、北九州学術研究都市には、北九州市立大学国際環境工学部・大学院国際環境工学研究科、九州工業大学大学院生命体工学研究科、早稲田大学大学院情報生産システム研究科、福岡大学大学院工学研究科の1学部4大学院、その他に13の研究機関や、44の企業等が集積しています。

開設時には約300人だった学生数は、現在約2,300人となり、そのうち留学生は約500人を超え、まさにアジアを中心とした各国からの頭脳が集まるキャンパスとなりました。

FAISは、この学研都市の一体的運営や産学連携の推進、地域中小企業の経営支援やベンチャー企業の創出・育成に取り組んでいます。

本事業報告書が、公益財団法人北九州産業学術推進機構の取り組みをご理解いただくための参考となれば幸いです。



目 次

(公財)北九州産業学術推進機構について	1
---------------------	---

学研都市の一体的運営

北九州学術研究都市の概要	3
学研都市の進出大学、研究機関、 企業および産学連携施設	5
アジアの学術研究拠点の形成	9
地域交流・広報活動・施設の市民開放	11

産学連携の推進

産学連携の取り組み(全体フロー)	13
情報収集・発信、産学交流の促進	13
研究成果の特許化と技術移転《北九州TLOの運営》	16
研究開発支援	17
技術拠点化の推進	22

中小企業・ベンチャー企業の総合的支援

中小企業の総合的支援	25
ベンチャー企業の創出・育成	26

財団運営

評議員および役員名簿	27
決算資料	28

アクセスマップ	32
---------	----

北九州学術研究都市

- キャンパス運営センター
- 産学連携統括センター
ものづくり革新センター
半導体・エレクトロニクス技術センター
自動車技術センター
ロボット技術センター

アジア太平洋 インポートマート(AIM)

- 中小企業支援センター
中小企業・ベンチャー支援部ベンチャー支援課

北九州テクノセンタービル

- 中小企業支援センター
中小企業・ベンチャー支援部経営支援課



公益財団法人 北九州産業学術推進機構

フェイス

FAIS

Kitakyushu **F**oundation
for the **A**dvancement of **I**ndustry,
Science and Technology

- 理事長／國武 豊喜
- 基本財産／2億円(全額北九州市出捐)
- 役員等構成／[学界] 学研都市参画大学副学長 市内理工系大学長等
[産業界] 商工会議所等経済団体
[行政] 北九州市、福岡県
- 職員数／72名(H27.5.1現在)、市派遣：14名、県派遣：1名、
民間出身等：36名(うち出向15名)、事務嘱託等：21名
- 平成26年度事業費(支出決算額)／27.4億円
(うち、国等の受託研究等約2.2億円)

産学連携の推進

研究成果の
特許化、
事業化支援
北九州TLO

- 情報収集・発信、産学交流の促進
- 研究開発支援
- 技術拠点化の推進
半導体技術拠点化
自動車技術拠点化
ロボット技術開発拠点化

北九州学術研究都市の
一体的運営

- 施設の管理・運営
- アジアの学術研究拠点の形成
海外大学等との共同研究支援
海外との交流協定
留学生支援
- 地域交流・広報活動

アジアに開かれた学術研究拠点
新たな産業の創出、技術の高度化
地域の産業・学術の振興

中小企業の
総合的支援、
ベンチャー企業の
創出育成

- 経営相談・専門家派遣・
販路開拓支援
- インキュベーション施設の
管理・運営

キャンパス運営センター

北九州学術研究都市内にある
共同利用施設の管理・運営を行う
とともに、進出大学間の連携・交
流を促進し、学研都市の一体的な
運営を行っています。



産学連携統括センター

先端科学技術分野の研究を行う大学・研究機関の知的基盤を活用した産学共同研究や技術移転のコーディネートを行い、産業技術の高度化や新産業の創出を促進しています。



- ◎産学連携のコーディネート、技術等の相談窓口
- ◎北九州学術研究都市の研究シーズの発信
- ◎産学交流の場の提供
- ◎産学共同研究プロジェクトの企画推進、研究成果の事業化支援
- ◎産学共同研究開発への支援
- ◎北九州TLOによる技術移転支援
- ◎地域イノベーション戦略支援プログラムの推進

ものづくり革新センター

従来型支援(市内企業・大学が提案・実施するプロジェクトの競争的資金獲得・運営等)に加え、激変するものづくりに対応すべく、「革新的ものづくり」を実現するプロジェクト創出、研究会運営等を通して、市内企業の産業競争力を強化支援します。

◎「革新的ものづくり」実現に向けた支援活動 ◎研究開発支援 ◎事業化支援

自動車技術センター

自動車産業の拠点化を推進するために、産学官連携による研究開発支援・人材育成を行っています。企業技術者と大学研究者のコーディネートによる研究会活動をベースに共同研究開発を促進するとともに、学研都市3大学による「連携大学院「カーエレクトロニクスコース」、「インテリジェントカー・ロボティクスコース」の支援など、専門人材の育成に取り組んでいます。

◎研究開発支援 ◎人材育成



▲自動車技術・ロボット技術・半導体技術の支援、拠点となる技術開発交流センター



▲自動車工学「エンジン分解・組立実演」の様子(協力:日産自動車九州㈱)

ロボット技術センター

北九州地域のロボット産業振興を目的とし、北九州ロボットフォーラムの運営をしています。ロボット技術の調査、開発から実証までのコーディネートや学研都市内の大学とロボット関連企業との共同研究開発を通して、ロボットの技術開発および実証の拠点化を進めています。また、市内企業へのロボット普及を推進するための導入支援事業や人材育成活動を実施しています。



▲運動競技場用自動ライン引きロボット

- ◎ロボット技術の調査、開発、コーディネート
- ◎実証化・事業化のコーディネート
- ◎人材育成
- ◎中小企業へのロボット導入支援

半導体・エレクトロニクス技術センター

半導体・エレクトロニクス産業の振興のため、新たなアプリケーションの創出を目指し、ベンチャー・中小企業等の支援、産学連携の促進、人材育成等の事業を展開しています。

なお、新商材の創出を目指すベンチャー・中小企業等支援の一環として、設計・評価・解析環境の提供も行っています。

- ◎半導体関連ベンチャー・中小企業の支援 ◎産学連携の促進
- ◎半導体関連の人材育成(ひびきの半導体アカデミー)
- ◎ひびきのLEDアプリケーション創出協議会の運営

講座風景



▲LED駆動技術実習講座



▲半導体の故障解析講座

中小企業支援センター

戸畑区中原新町2-1(北九州テクノセンター1階)

中小企業の経営革新・創業をワンストップで支援しています。創業や経営の改善・革新を目指す個人や中小企業の取り組みを支援するため、相談窓口、専門家派遣等のほか北九州知的所有権センターやインキュベーション施設である北九州テレワークセンター等の運営も行っています。



- ◎地元中小企業への総合支援
※総合相談窓口 ※専門家派遣
- ◎北九州知的所有権センターの運営



- ◎北九州テレワークセンターの運営
※インキュベーション機能の提供
※ビジネス展開の拠点の提供
※市民の情報リテラシー向上の場の提供
北九州テレワークセンター/
小倉北区浅野3丁目8-1AIMビル6F

学研都市の一体的運営

北九州学術研究都市の概要

北九州学術研究都市とは

北九州学術研究都市は、「アジアに開かれた学術研究拠点」と「新たな産業の創出・技術の高度化」を目指し、理工系の国・公・私立大学や研究機関が同一のキャンパスに集積するという独自の試みとして、平成13年4月にオープンしました。現在、進出した大学が北九州学術研究都市の理念を共有して、先端的な科学技術、特に「環境技術」と「情報技術」を中心に活発な教育研究活動を展開しています。

大学等の『知』を活用した 地域の産業・学術の振興

アジアに開かれた学術研究拠点

新たな産業の創出・技術の高度化

新たな技術と
豊かな生活を
創り出す

**アジアの
先端産業都市
の実現**

(北九州市新成長戦略の目標)

北九州学術研究都市の特色

理工系の大学・研究機関、 研究開発型企业等を 同一のキャンパスに集積

◎国・公・私立大学(1学部4大学院)

北九州市立大学国際環境工学部・大学院国際環境工学研究科

九州工業大学大学院生命体工学研究科

早稲田大学大学院情報生産システム研究科

福岡大学大学院工学研究科

◎研究機関(13機関)

◎研究開発型企业等(44社)

進出大学の教育・ 研究理念の共通化

◎先端的な科学技術分野での

教育・研究の展開

◎産学連携の促進

◎起業家精神の育成

◎アジアの学術研究拠点の形成

キャンパスの一体的な運営、 施設の共同利用

◎学研都市進出大学の代表者で

構成する「キャンパス運営委員会」による

共同事業の企画・立案

◎図書室、情報処理施設、利便施設の共同利用

研究者・教員・学生相互の交流と連携

◎進出大学による共同研究、教員等の交流

◎単位互換の実施

◎進出大学による連携大学院の運営

連携大学院カーエレクトロニクスコース

連携大学院インテリジェントカー・ロボティクスコース

北九州学術研究都市整備事業

◎整備の基本方針

北九州学術研究都市の開発は、周辺の自然環境や都市環境を活かしながら、先端科学技術に関する教育・研究機関の集積と良好な住宅街の供給を同時に行う『複合的な街づくり』として進めています。

◎開発地域／若松区西部・八幡西区北西部

◎開発総面積／約335ha

◎計画人口／12,000人(昼間人口)

住宅4,000戸

◎整備スケジュール

第1期事業(約121ha)

平成7年度～17年度 ※事業完了

事業主体:(独)都市再生機構

第2期事業(約136ha)

平成14年度～29年度

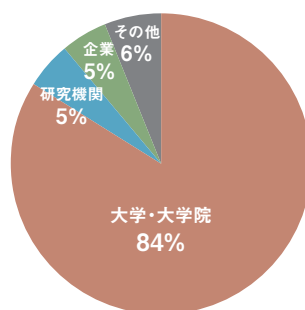
事業主体:北九州市

第3期事業(約68ha)

検討中

河川事業(約10ha)

【土地利用概略図】



北九州学術研究都市の昼間人口
(平成27年5月1日現在)

約3,200名

学生	2,330名 (うち留学生530名)
教員 ※専任教員のみ	159名 (うち企業出身者31名)
研究員	140名 (うち外国人研究員51名)

北九州学術研究都市整備のあゆみ

平成元年(1989年)		「北九州学術研究都市基本構想」策定
平成8年(1996年)	2月	「北九州学術・研究都市南部土地区画整理事業」(第1期事業)着手
平成12年(2000年)	4月	「九州工業大学大学院生命体工学研究科」開設
平成13年(2001年)	4月	「北九州学術研究都市」オープン
		「北九州市立大学国際環境工学部」開設
平成14年(2002年)	1月	「共同研究開発センター(産学連携センター2号館)」開設
	4月	「福岡大学大学院工学研究科」開設
		「北九州学術・研究都市北部土地区画整理事業」(第2期事業)着手
	5月	「情報技術高度化センター(産学連携センター3号館)」開設
平成15年(2003年)	4月	「北九州市立大学大学院国際環境工学研究科」開設
		「早稲田大学大学院情報生産システム研究科」開設
平成17年(2005年)	4月	「事業化支援センター(産学連携センター4号館)」開設
平成18年(2006年)	6月	「北九州学術・研究都市南部土地区画整理事業」(第1期事業)完了
平成20年(2008年)	7月	「技術開発交流センター(産学連携センター5号館)」開設
平成21年(2009年)	4月	「北九州学術研究都市連携大学院カーエレクトロニクスコース」開設
平成23年(2011年)		北九州学術研究都市 10周年
平成25年(2013年)	4月	「北九州学術研究都市連携大学院インテリジェントカー・ロボティクスコース」開設
	10月	「産業用ロボット導入支援センター」開設

学研都市の進出大学、研究機関、企業および産学連携施設

北九州学術研究都市進出大学・産学連携施設

1 北九州市立大学

国際環境工学部

■学生定員：1,000名
エネルギー循環化学科
機械システム工学科
情報メディア工学科
建築デザイン学科
環境生命工学科

大学院国際環境工学研究科

■学生定員：336名
環境システム専攻
環境工学専攻
情報工学専攻



2 九州工業大学大学院



生命体工学研究科

■学生定員：352名
生体機能応用工学専攻
人間知能システム工学専攻
生命体工学専攻

3 早稲田大学大学院



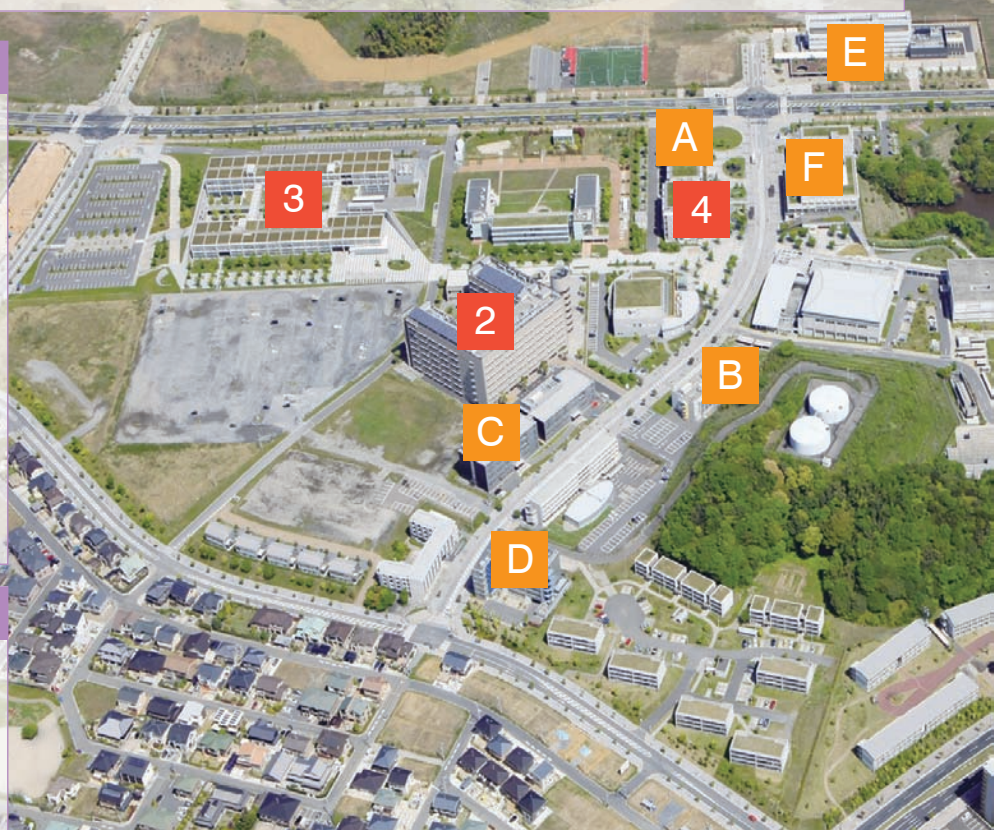
情報生産システム研究科

■学生定員：460名
情報アーキテクチャ分野
生産システム分野
集積システム分野

4 福岡大学大学院

工学研究科

■学生定員：32名
資源環境・環境工学専攻
エネルギー・環境システム工学専攻



学生数および教員数

(平成27年5月1日現在)

大学	学部	修士	博士	研究生	特別研究学生	学生数計	教員数
北九州市立大学	1,130	—	—	2	0	1,132	84
国際環境工学部	(29)	—	—	(2)	(0)	(31)	
北九州市立大学大学院	—	282	50	0	0	332	—
国際環境工学研究科	—	(49)	(36)	(0)	(0)	(85)	
九州工業大学大学院	—	290	157	1	4	452	46
生命体工学研究科	—	(26)	(48)	(1)	(4)	(79)	
早稲田大学大学院	—	338	68	0	0	406	27
情報生産システム研究科	—	(285)	(48)	(0)	(0)	(333)	
福岡大学大学院	—	5	3	0	0	8	2
工学研究科	—	(2)	(0)	(0)	(0)	(2)	
合計	1,130	915	278	3	4	2,330	159
	(29)	(362)	(132)	(3)	(4)	(530)	

()内は留学生数

※産学連携センター内

A 産学連携センター

産学連携センター
1号館

産・学・官が手を組んで研究を進める中核施設

「公益財団法人福岡県リサイクル総合研究事業化センター」などの研究機関や、最先端の研究を行う企業、「福岡大学大学院工学研究科」が入居しています。また、100人程度まで対応できる会議室や研修室なども提供しています。

- 貸研究室(31室)
- 研修室、会議室(中・小)

B 共同研究開発センター

産学連携センター
2号館

半導体微細加工技術の研究開発を支援する施設

企業や大学などが半導体製造関連分野の研究開発などを行う施設です。ICやMEMSの試作を行う研究開発機器の開放や研究室の提供などを行います。IC試作体験実習(CMOSプロセス)の受け入れも可能です。



- 貸研究室(7室)
- 共同利用のIC・MEMS向け微細加工装置群を設置
(イオン注入装置、電子ビーム描画装置、両面露光装置、高速熱処理装置(RTA)、ダイシングソー、ボンディング装置等)

C 情報技術高度化センター

産学連携センター
3号館

ネットワークや半導体設計に関する研究開発を行う施設

企業や大学などが高度な情報通信技術や半導体設計技術の研究開発などを行う施設です。コンテンツ制作や半導体設計を行う研究開発機器の開放や研究室の提供などを行います。

- 貸研究室(24室)
- 会議室
- 半導体設計を行う研究開発機器等を設置

D 事業化支援センター

産学連携センター
4号館

大学発ベンチャー等の研究開発や事業化を支援する施設

一般事務系オフィスのほか、機械系と化学系の研究室や、小規模ブース単位で使用できる共同研究室を提供しています。

- 貸研究室(35室)
- 会議室(中・小)
- 共同研究室(10ブース)

E 技術開発交流センター

産学連携センター
5号館

カーエレクトロニクス、ロボット分野等での新たな技術開発を支援する施設

北九州学術研究都市でのこれまでの成果を活用し、カーエレクトロニクス、ロボット分野等での技術開発を支援する施設です。また、学術研究等を目的に学研都市を訪れるの方のための宿泊室も備えています。

- 貸研究室(47室)機械系研究室、化学系研究室、IT系研究室
- 宿泊室(9室)シングル8室、ツイン1室
- 交流室(2室)
- 会議室(中・小)

F 学術情報センター

図書室
情報処理施設

情報を集積・発信するマルチメディアステーション

学術情報の収集提供(図書室)の機能、情報処理教育施設の機能を持つほか、キャンパス内に整備された大容量ネットワークを利用したさまざまな情報通信サービスを提供しています。

貸研究室賃料

◎2,000円/㎡・月(共益費別 500円/㎡・月)
(例:研究室50㎡の場合およそ150万円/年 光熱水費等別)

※FAISは、北九州市から指定管理者としての指定を受け、産学連携施設の効果的・効率的な管理・運営を行っています。

産学連携施設が充実する北九州学術研究都市には、大学だけではなく研究機関および半導体設計関連企業を中心とした研究開発型企業の進出も進んでいます。また、北九州学術研究都市の大学シーズを活用した起業も活発で、学研都市発ベンチャー企業も15社入居しています。

進出研究機関

平成 27 年 7 月 1 日現在

	研究機関等の名称	入居場所	研究内容
1	早稲田大学 情報生産システム研究センター	早稲田大学 情報生産システム 研究センター	自動車エレクトロニクスおよび LSI 分野において国際的水準の高度な研究、人材育成
2	公益財団法人 福岡県リサイクル総合研究 事業化センター	産学連携センター	資源循環型社会の構築に向けて、産学官民が共同で取り組みながら環境・リサイクル技術と社会システムを併せた研究
3	福岡大学 産学官連携センター 北九州産学連携推進室	産学連携センター	環境産業に関する企業のニーズ、自治体の政策およびシーズをマッチングさせ、産学官連携による環境産業振興を展開
4	中国上海交通大学 北九州研究室	早稲田大学 情報生産システム 研究センター	ユビキタス情報処理先行技術、産業用ロボット・制御システム、アンビエント SoC 技術等に関する研究
5	中国北京大学 情報科学技術学院 北九州研究室	早稲田大学 情報生産システム 研究センター	超高速人物検索技術およびセキュリティ応用に関する海外共同研究
6	九州工業大学 先端エコフィッシング 技術研究開発センター	九州工業大学	技術のエコフィッシングを指向した技術の高度化・付加価値化を目指す研究開発および教育
7	北九州市立大学 技術開発センター群	北九州市立大学	北九州学術研究都市における技術開発機能を高め、その成果の事業化を推進することを目的に、今後有望な産業シーズの開発を専ら担う各センターを設置し、市の科学技術振興指針に掲げる「知を基盤としたものづくりの街」と「次世代社会システムの構築」の実現を推進するもの ①バイオマス研究センター ②バイオメディカル材料開発センター ③環境・消防技術開発センター
8	北九州市立大学 環境技術研究所	北九州市立大学	21 世紀の地球社会の変化と地域社会の要請に応え、産業発展や災害対策に寄与するために、環境、エネルギーおよび情報分野等の研究と技術開発を戦略的に進めるもの
9	九州工業大学 イノベーション推進機構 産学連携・URA 領域 若松分室	技術開発交流 センター	電界共振型生体センシングおよびセンシングデータ解析システムの開発
10	一般財団法人 ファジィシステム研究所	技術開発交流 センター	ファジィ理論を応用した情報処理システムに関する試験研究
11	九州工業大学 次世代パワーエレクトロニクス 研究センター	事業化支援 センター	省エネルギーの推進、電力の高度利用技術、自然エネルギーの活用等、低炭素社会の実現に貢献するパワー半導体を中心とした次世代パワーエレクトロニクス技術の研究
12	伊国フィレンツェ大学 国際プラントニューロ バイオロジー研究所 北九州研究室	技術開発交流 センター	新規高輝度 LED 利用による省エネルギー・超高集約型植物栽培システムの開発
13	その他 1 機関	事業化支援 センター	国立大学法人九州工業大学、北九州市との環境エレクトロニクス研究の連携・協力に関する覚書に基づく研究

進出企業

平成 27 年 7 月 1 日現在

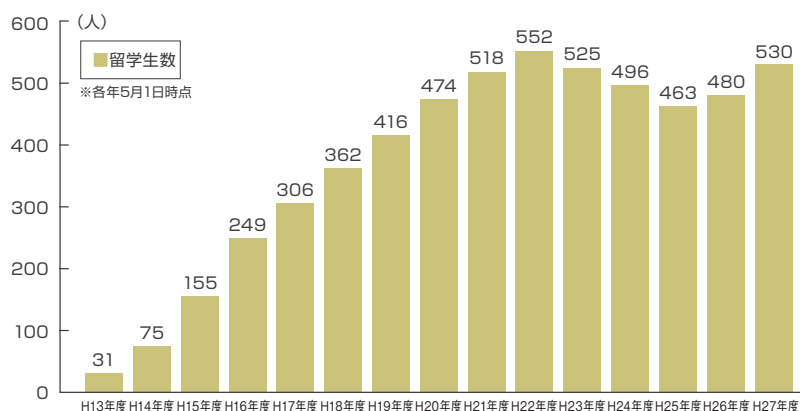
	入居場所	企業名	事業内容
1	産学連携センター	(株)インフォグラム	システム開発、パソコン教育サービス、インターネットサービスおよび前各号に付帯関連する一切の業務
2		石田特許事務所	特許、および実用新案・意匠・商標登録の出願手続の代理、特許出願等に関するコンサルティング
3		(株)ワールドフュージョン	バイオインフォマティクス・ケミカルインフォマティクスのソフトウェア、データベース開発販売
4		(株)ロココ	システム開発、ヘルプデスク、システム運用保守、コールセンターサービス業
5		● (株)ヒューマンリソース・デベロップメント	ハイパワー LED を有する高出力投光機および高性能ヒートスプレッダーの研究開発、事業開発並びに人材育成等に関する支援
6	共同研究開発センター	(株)セキュリティ情報研究所	システム開発、システム保守 (24 時間 365 日)
7		(有) K2R	触媒反応を利用したラジカル種含有の水の生成装置の研究開発
8	情報技術高度化センター	ディー・クルー・テクノロジーズ(株)	アナログ回路設計、ファームウェア開発、システム開発
9		大日本印刷(株)	LSI・IP 設計開発、設計評価技術の開発、画像処理システムの研究開発
10		(株) Windy	ソフト開発
11	事業化支援センター	● (株)ジオクラスター	都市計画・環境に関するコンサルタント、環境製品の開発販売
12		● (有)ビー	画像処理システムおよびソフトウェアの研究開発
13		● 実研開発(有)	臨床工学教育機材、光伝送生体信号測定装置
14		● (株)ブラテック	Web システム開発、アカデミックソリューション事業
15		● (株)ミックステクノロジーズ	Actvila (アクトビラ) 対応ブラウザ、BML 対応ブラウザ開発販売
16		● RoboPlus ひびきの(株)	メカトロニクス設計・製造および販売、コンサルタント業
17		(有) OHG 研究所	臨床検査および臨床検査技術の研究開発、生体試料分析
18		博通テクノロジー(株)	地域新生コンソーシアム事業 (無線センサネットワークによる建造物の健全度診断システム) に関係するソフトウェア等の開発
19		ひびきの会計事務所	山口公認会計士・税理士事務所 (公認会計士業務)
20		● (株) STEQ	LED 高放熱、低コスト実装技術の開発と事業化
21		● 日本プライスマネジメント (株)	化学物質のリスク管理ツール開発
22		(有) Seed	医療機関内の物流管理システムの開発
23		(株) AK システム	半導体製造装置製作技術等の新産業分野への応用研究開発
24		カルソニックカンセイ(株)	アジア成長研究所との共同研究
25		● (株)石炭灰総合研究所	改質フライアッシュコンクリートの製造システムに関する研究開発
26		(株) ITS	半導体集積回路等電子部品の研究開発
27		環境エネルギー(株)	廃プラ油化 (HiCOP)、廃食油・油脂含有物質のバイオ燃料化 (HiBD) の共同研究および切粉乾燥装置研究開発
28		● (株) Key Word Lab	教育支援システム開発、Web システム開発
29		● ベセル(株)	バイオテクノロジーおよびバイオメディカル用バイオマテリアルの開発および販売
30		(株)イッコーズ	細胞培養容器開発 (ベセル(株)との共同研究)
31		菱電商事(株)	全波長領域の光 LED 要素技術開発
32	技術開発交流センター	(株)シキノハイテック	半導体設備の設計／製作／調整、LSI 回路設計／レイアウト等
33		吉川工業(株)	RF-ID に関する研究開発事業
34		(株)C & Gシステムズ	金型設計・加工用 CAD / CAM ソフトウェア開発
35		新日本無線(株)	半導体の調査・研究・開発
36		(株)パートナー	自動車産業向け MBD / CAD / CAE 開発および人材育成
37		シャボン玉石けん(株)	無添加の化粧石けん、家庭用洗浄剤、消火剤などの製造販売
38		● イーアイエス(株)	LED 照明灯の研究・開発
39		(株)トリコ	電気部品の開発・修理
40		中国吉隆グループ在日事務所	環境分野、製造分野における技術移転、技術協力、研究等
41		● (株)環境フォトリクス	植物育成用 LED 光源等の研究・開発・販売
42		● (株) FILTOM	ブラセンタエキス (豚胎盤液) を使った化粧品の開発・製造・販売
43		(株)パラマ・テック	一過性意識喪失発作の原因診断を可能とする心電図・血圧同時連続長時間記録計の研究開発
44		アイシン精機(株)	画像認識・空間認識、車両制御等の要素技術開発

※●印は学研開発ベンチャー企業 (15 社)

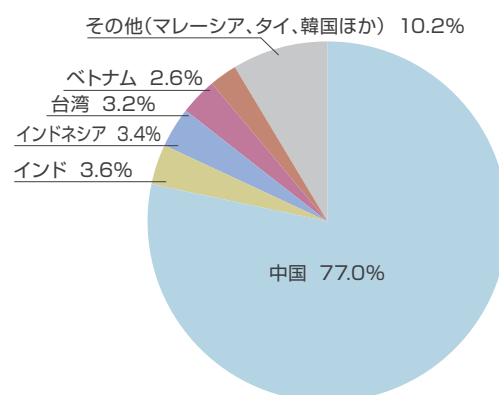
アジアの学術研究拠点の形成

北九州学術研究都市の留学生

【留学生数の推移】



【出身国内訳(28か国)】



留学生の支援と優秀なグローバル人材の育成

FAIS留学生就職支援プログラム事業の運営

北九州学術研究都市内の3大学(北九州市立大学、九州工業大学、早稲田大学)の修士留学生を対象に、日本企業への就職を支援する「FAIS留学生就職支援プログラム」事業を実施しました。

受講生	20名(九州工業大学4名、早稲田大学16名)
プログラム	・就活支援講座(就活セミナー、模擬面接セミナー、就活カウンセリング、エントリーシート・履歴書添削、身だしなみ・マナー講座等)
	・ビジネス日本語講座
	・日本ビジネス講座(講義は北九州市立大学ビジネススクール・市内企業の講師に依頼)



模擬面接セミナー

語学教育センターの運営

留学生や北九州学術研究都市に立地する企業・研究機関の職員を対象に、日本語・英会話・漢字の講座を開講する語学教育センターを運営しました。

- 日本語クラス／習得レベルにあわせた初級からビジネス日本語までの7クラス
- 習熟度別少人数指導方式日本語／1コース
- 英会話クラス／初級と中級の2コース
- 漢字クラス／初級・中級1コース
- 平成26年度受講者／日本語242名、英会話33名、漢字34名、
習熟度別少人数指導方式日本語11名、
計320名



日本語講座

留学生交流事業への助成

学研都市の留学生と地域住民との交流事業などを支援するため、NPO法人等が運営する事業に対して助成を行いました。

留学生への宿舍の提供・奨学金の給付

総戸数200戸の留学生宿舍を提供するとともに、北九州学術研究都市の大学院に在籍する留学生を対象に、「北九州学術研究都市奨学金」(1人年間60万円)を給付しました。

●平成26年度給付人数枠／20人



留学生宿舍

冠奨学金の給付

高度人材として活躍が期待される留学生と地域企業とのネットワーク構築支援目的として創設された冠奨学金制度に、株式会社戸畑ターレット工作所・日本プライスマネジメント株式会社の2企業からの寄付金(年間60万円／名、36万円／名)をいただき奨学金を給付しました。

●平成26年度給付人数枠／2人



冠奨学金

海外との交流促進

各大学における海外大学との交流協定(平成27年5月現在)

【北九州市立大学国際環境工学部(19機関)】

トルコ: エーゲ大学、ベトナム: ハノイ建設大学、イタリア: フィレンツェ大学、中国: 遼寧工業大学、モンゴル: モンゴル科学技術大学 他14機関

【九州工業大学大学院生命体工学研究科(25機関)】

マレーシア: プトラ大学、フランス: ボルドー工科大学 ENSEIRB-MATMECA大学院、中国: 大連理工大学 他22機関

【早稲田大学大学院情報生産システム研究科(45機関)】

中国: 清華大学・上海交通大学・北京大学、台湾: 国立台湾大学、韓国: 延世大学校、タイ: タマサート大学 他39機関

海外の研究機関等との交流協定

FAISは、台湾のサイエンスパークや中国の清華大学、上海交通大学および北京大学、イタリアのフィレンツェ大学と交流協定を締結しています。交流協定を締結した大学や研究機関と北九州学術研究都市内大学との共同研究に対して助成等を行うほか、シンポジウム、セミナーを開催しています。

●平成16年／台湾 新竹サイエンスパーク、南部サイエンスパークとの交流協定締結

●平成18年／中国 清華大学との交流協定締結

●平成19年／中国 上海交通大学との交流協定締結

●平成21年／台湾 中部サイエンスパークとの交流協定締結

●平成23年／中国 北京大学との交流協定締結

●平成24年／伊国 フィレンツェ大学との交流に関する覚書締結



フィレンツェ大学北九州研究室開設

海外連携プロジェクトへの助成

北九州学術研究都市に進出した海外の大学(中国・上海交通大学北九州研究室、中国・北京大学情報科学技術学院北九州研究室、伊国・フィレンツェ大学国際ブランドニューロバイオロジー研究所北九州研究室)と共同研究を行う学研都市内の大学に助成を行うとともに、進出した海外大学に対し、拠点の設置・維持にかかる経費の一部を助成しました。

●平成26年度実績／共同研究開発助成3件(助成総額1,800万円)、研究拠点助成2件(助成総額約240万円)

地域交流・広報活動・施設の市民開放

地域交流イベントの開催

第12回 北九州学術研究都市ひびきの祭

地元自治会など地域の方々との協同による「ひびきの祭」を開催し、多くの方へ科学やものづくりへの興味を喚起する場を提供しました。

日程／平成26年11月 9日(日)

会場／北九州学術研究都市

内容／アキラボーイの「デジタルサイエンス!ステージ」

おもしろサイエンスと遊ぼう! 広場

ふしぎ体験! LED工作教室～家族で省エネ大作戦～

ICプロセス体験道場 in ひびきの

ひびきの街の秋祭り など

来場者数／約5,000人



北九州学術研究都市サイエンスカフェ

研究者が市民の輪に入って科学の話題を提供、参加者がともに考えながら、科学技術に対する理解と関心を高めることを目的に開催しました。

平成26年 8月22日(金)／テーマ『みんなの息と声で電気を作ろう!』

講師:早稲田大学大学院 情報生産システム研究科 吉江 修 教授

会場:北九州市立八幡西生涯学習総合センター(八幡西区)

11月 9日(日)／テーマ『料理と科学の出会い～料理の常識を変える? 話題の分子調理法～』

講師:九州工業大学大学院 生命体工学研究科 脇坂 港 准教授

会場:北九州学術研究都市 技術開発交流センター(若松区)



広報活動

積極的な情報発信

北九州学術研究都市の取り組みや成果を、さまざまな機会や手法を活用して、国内外への情報発信を行っています。

平成26年度報道件数／177件

(内訳:テレビ42件、雑誌26件、新聞109件)



展示会への出展

下記の展示会をはじめ、7件の展示会にブースを出展し、北九州学術研究都市の研究成果等を発信しました。

人とくるまのテクノロジー展2014

会 期／平成26年5月21日(水)～23日(金) 総来場者数／87,523人

出展内容／超小型EV展示や、パネル展示・パンフレット配布・ビデオ上映など

ひびきの賞(修士論文)

北九州学術研究都市の大学院に在籍する修士課程の学生を対象に、優秀な修士論文を表彰しています。第1次審査で、優秀賞の4編を選び、さらにプレゼンテーションによる論文発表の後、最優秀賞を決定しました。

応募総数／7編

最優秀賞／九州工業大学大学院 生命体工学研究科 佐保 雄太

テーマ:「メタモデル学習は脳に存在しうるか ～興奮伝播場による情報の転送と統合～」

優 秀 賞／北九州市立大学大学院1編、九州工業大学大学院1編、早稲田大学大学院1編

広報誌の発行

●北九州学術研究都市の産学連携最前線 ～北九州のニューフェイス～ vol.2

北九州学術研究都市の大学・研究機関と地域企業との共同研究について、平成26年7月から10月にかけて工業系全国紙上で連載された「北九州学術研究都市の産学連携事例」記事をもとにして作成しました。

発行部数／5,000部

配布先／北九州学術研究都市内、北九州市内企業、北九州市関係機関、各報道機関



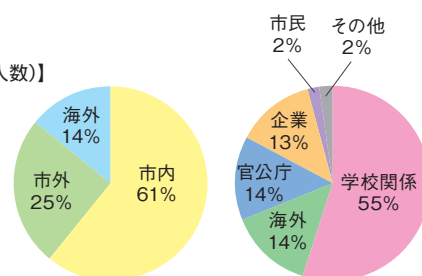
国内外研究者等の受け入れ

北九州学術研究都市に来訪した多数の国内外研究者等に対し、学術研究都市の設立目的や個別施設の概要、産学連携活動の取り組みや成果等を紹介しています。

平成26年度視察者数／1,174人

*海外／164人(36カ国・地域) *国内／1,010人

【視察者内訳(人数)】



市民も利用できる共同利用施設の運営

学術情報施設

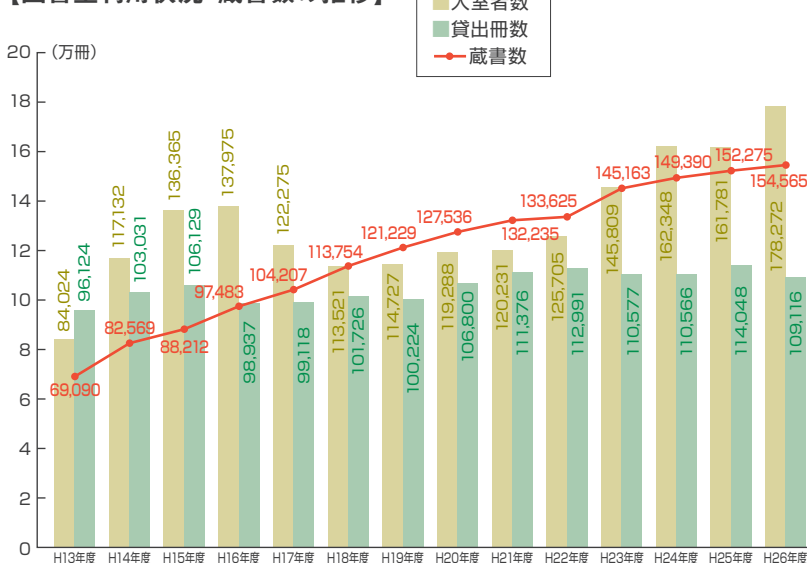
市立図書館とオンラインで結ばれ、他の市立図書館と同様に利用できる一般図書室と、北九州学術研究都市に進出している大学の専門図書を集中配架する専門図書室を運営しています。

また、パソコンを配備した講義室や、遠隔地とリアルタイムでテレビ会議ができる遠隔講義室等を備えています。



学術情報センター

【図書室利用状況・蔵書数の推移】



コンベンション・体育施設

会議場／国際会議にも対応できる同時通訳設備を完備した460席の会議場で、イベント後の懇親会等にもスペースを活用できるホールが隣接しています。

会議室／ニーズに応じて様々な形態の会議や研修、地域活動に利用できます。Wi-Fiも使用可能です。

体育施設／大学の授業やクラブ活動で使用する以外は、一般の方にも開放しており、地域クラブ等の活動にも利用されています。



会議場(外観)



会議場(メインホール)



会議場(イベントホール)



会議室



研修室



体育館



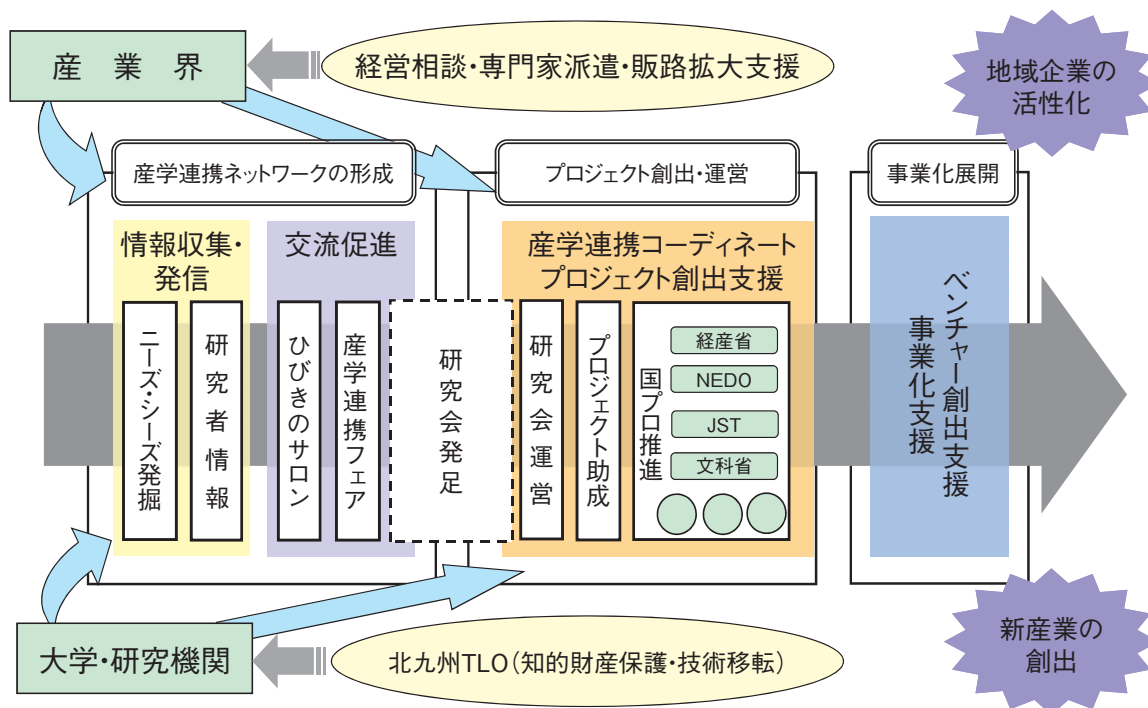
運動場



テニスコート

産学連携の推進

産学連携の取り組み(全体フロー)



情報収集・発信、産学交流の促進

産学連携関連情報の収集・発信

研究者情報の発信

北九州学術研究都市に在籍する研究者のシーズ(提供可能な技術や知識)の調査を行い、産学連携推進のために広く情報を発信しています。

- 『研究者情報データベース』をFAISのホームページ上に構築
- 『北九州学術研究都市の研究者情報』冊子の作成

毎年、市内外の企業等に配布

- ◎研究者情報冊子 約1,500部
- ◎研究者情報冊子ダイジェスト版 約3,500部



研究者情報データベース

<http://fais.ksrp.or.jp/05kenkyusha/srch.asp>

産学連携センターNEWS

産学連携センターNEWSを電子メールで配信しています。セミナーの情報や、産学交流サロン(ひびきのサロン)、産学連携フェアに関するトピックス等を随時掲載しています。

- ◎配信先 約7,000件
- ◎配信件数(累計) 569通配信



研究者情報冊子

常設の産学交流の場

産学交流サロン(ひびきのサロン)の開催

北九州学術研究都市から新たな産学連携の動きが次々と生まれてくることを目指し、産学官から複数の研究者等が特定の技術テーマについて自由に意見を交換する交流の場「産学交流サロン」を開催しています。平成14年度のスタートから平成26年度までに136回開催し、のべ13,460人の方が参加しています。

【平成26年度実績】

日 時	テーマ	講 師	参加人数
第129回 6/26	最先端の光ソリューションで研究開発とビジネスの可能性を探る ～バイオ研究・環境計測分野等へのレーザー用光学機器・光学システムの応用～	シグマ光機(株) 仲家 洋 氏 早稲田大学 池沢 聡 氏 自然科学研究機構 亀井 保博 氏	36
第130回 9/11	～北九州医歯工連携研究会～ 潜在ニーズをつかみ取れ！ ユーザーと共に新しいプロダクトを生み出す「デザイン思考」セミナー	九州大学 平井 康之 氏 オムロンヘルスケア(株) 井上 皓介 氏	87
第131回 10/10	「産業界が求める人材と連携大学院への期待」 ～産業界、先輩から送る連携大学院生への熱いメッセージ～	日産自動車(株) 田中 裕史 氏 九州工業大学 森江 隆 氏 早稲田大学 坂口 淳 氏 日産自動車(株) 和田 佑二 氏	76
第132回 10/31	<新技術説明会> 第1部「環境・エネルギー」 第2部「医療・福祉・健康」	九州工業大学 谷川 洋文 氏 北九州市立大学 高巢 幸二 氏 中村学園大学 中野 修治 氏 九州歯科大学 中原 孝洋 氏 産業医科大学 児玉 裕美 氏 他	365
第133回 11/12, 13	グローバル情報生産システム研究の最前線！ ～アジアの頭脳が早稲田大学IPSひびきのキャンパスに集う～	早稲田大学 後藤 敏 氏 全南大学 Yonggwon Won 氏	176
第134回 2/6	LEDスマートアプリケーションの世界	岩崎電気(株) 稲森 真 氏 山口大学 山本 晴彦 氏 (株)フィリップスエレクトロニクスジャパン 石村 英樹 氏	106
第135回 3/6	ロボット革命実現に向けて ～国の施策とロボット技術の最新動向～	九州経済産業局 日野 紀良 氏 国立情報学研究所 稲邑 哲也 氏 THKインテックス(株) 内山 勝博 氏 北九州市 遠藤 大介 氏	104
第136回 3/12	～北九州医歯工連携研究会～ 「デザイン思考」セミナー Part2 介護現場からの実践報告	九州大学 平井 康之 氏 (株)ウチヤマホールディングス 吉岡 信之 氏 (株)さわやか倶楽部 小林 さおり 氏	57



第130回サロン



第134回サロン



第135回サロン



第136回サロン

産と学との出会い創出

第14回 産学連携フェアの開催

地域の大学・企業等の研究成果・活動内容を広く紹介し、産と学との交流の場を提供するため、産学連携フェアを開催しています。

【開催概要】

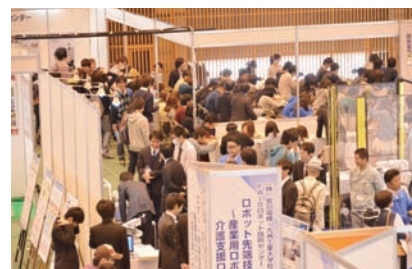
- 日程／平成26年10月30日(木)・31日(金)
- 会場／北九州学術研究都市
- テーマ／『知と技術の融合』
- 来場者数／7,712人(2日間のべ来場者数)

【来場者数内訳】

基調講演	600
セミナー	1,415
展示会	4,128
見学ツアー	272
交流パーティー／ 交流ルーム	591
同時開催	710



第14回産学連携フェアポスター



●出展機関・団体／43

●基調講演／

『世界のロボット事情と日本の進むべき道』

講師 津田 純嗣氏(株)安川電機 代表取締役会長兼社長)

●セミナー・シンポジウム／

大学、研究機関、企業による、研究成果や新産業創出に関する発表など
32のセミナー・シンポジウムを開催

●展示会／

環境・バイオ、半導体・情報アプリケーション、自動車・ロボット分野の先端技術および産学連携支援機関、防災技術、リハビリテーション医療における医工連携プロジェクトや小型EVの自律走行実験などの最新技術を実演やセミナー等を交えて紹介。

(展示コーナー43小間／特別企画9コーナー)46機関・団体が出展

産学共同による研究会の企画運営

平成26年度研究会活動

先端的で波及効果が高いと予想される技術分野に関するテーマや事業化の可能性の高いテーマについて、産学共同による研究会を企画・運営し、研究開発につなげる活動を進めました。

◎平成26年度研究会活動

北九州学術研究都市が開設された平成13年度から、様々な研究会を立ち上げてきました。研究会の取り組みは、国等プロジェクトの採択につながっています。

平成26年度は、「3Dものづくり技術研究会」や「作業動作アシストツール職場導入支援研究会」など18研究会を運営しました。



作業動作アシストツール職場導入支援研究会

研究成果の特許化と技術移転《北九州TLOの運営》

FAISは「北九州TLO (Technology Licensing Organization)」を運営し、地域の大学等の研究者が生み出した研究成果(発明)の特許化し、それらを民間企業へライセンス契約等によって技術移転しています。この技術移転により企業から得られたライセンス収入等の大半を研究者や大学に還元し、新たな研究開発につなげています。北九州TLOの保有技術シーズは、ホームページでも紹介しています。<http://www.ksrp.or.jp/fais/iac/project/tlo.html>

北九州TLOの仕組み・特許出願等



研究成果提供大学等

九州工業大学、産業医科大学、北九州市立大学、九州歯科大学、西日本工業大学、九州共立大学、北九州工業高等専門学校

これまでの特許出願件数およびライセンス契約件数(累計)

	H12～H16年度	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度
特許出願件数	172	202	229	248	271	293	306	321	331	332	335
ライセンス契約件数	74	91	106	122	131	143	167	180	194	200	211

これまでに事業化・製品化された事例(一部掲載)

名称	発明者・研究代表者
水添加型の界面活性剤系組成物(環境に優しい泡消火剤)	北九州市立大学 上江洲 一也 教授
新バイオディーゼル燃料(HiBD)の製造方法及び装置とそれに用いる触媒	北九州市立大学 藤元 薫 特任教授
医学実習用解剖台(ホルムアルデヒドの直接曝露防止)	産業医科大学 大和 浩 教授、菊田 彰夫 教授 他
マイクロ波を用いた減圧乾燥方法及びその装置	九州工業大学 鶴田 隆治 教授 他

新バイオディーゼル燃料(HiBD)の製造方法及び装置とそれに用いる触媒

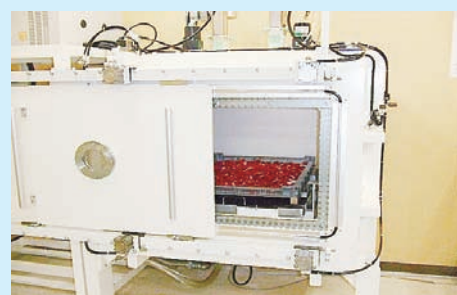


タイ(チュラロンコン大学)に設置したHiBDパイロットプラント(10ℓ/h)



パイロットプラントで製造したHiBD

マイクロ波を用いた減圧乾燥方法及びその装置



◀減圧乾燥装置(マイクロ波)

▷フリーズ＆ベジタブルふりかけ
◀ふりーらフルーラ



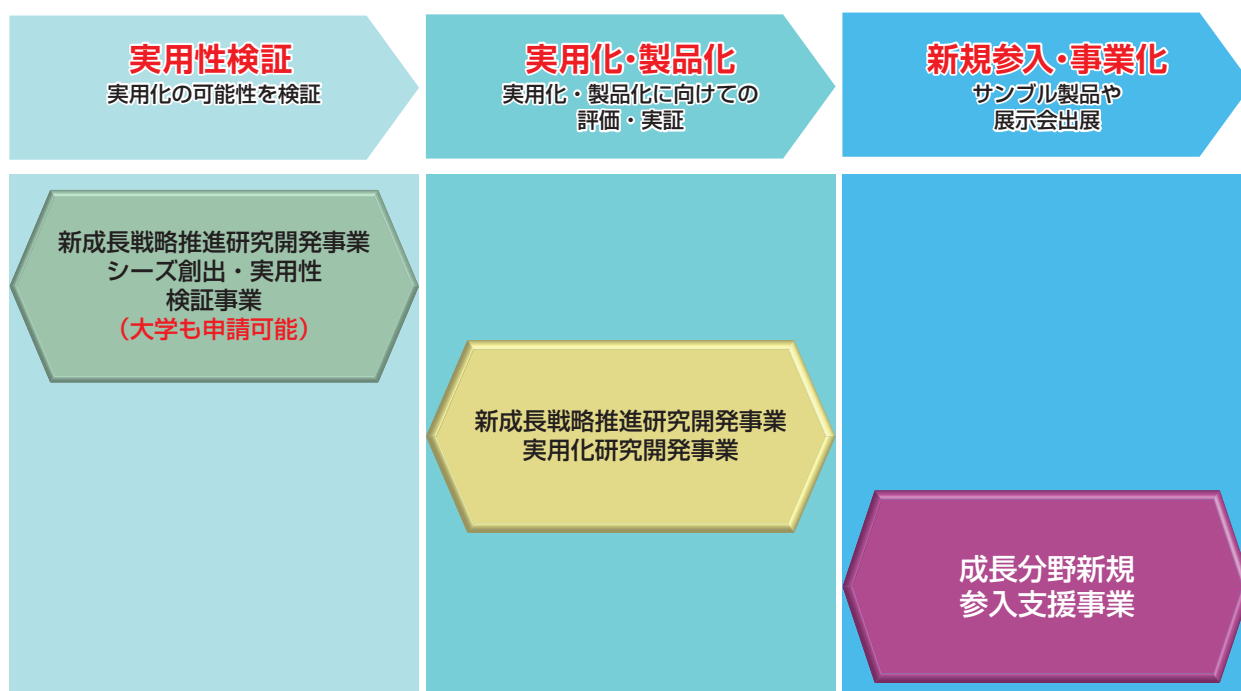
研究開発支援

平成27年4月現在

企業・大学等が実施する研究開発・製品化に対する支援制度

大学等の研究機関、市内企業が実施する研究開発や製品化のために助成金を交付し、新技術・新製品の開発を支援しています。

FAISの研究開発に対する支援制度



助成金の概要

名 称		概 要	対象者	助成額	助成期間
新成長戦略推進 研究開発事業	シーズ創出・実用性 検証事業	北九州市新成長戦略に定める成長分野に関し、実用化を目指すシーズを見出し、その可能性を検証するための研究開発に対して補助金を交付	①市内大学等 ②市内中小企業 ③市内中堅企業	①100万円(1/1) ②200万円(2/3) ③200万円(1/2)	1年以内
	実用化研究 開発事業	北九州市新成長戦略に定める成長分野において、実用化が見込まれる新技術・新製品の研究開発に対して補助金を交付	市内企業または市内で研究開発を行う企業	(一般枠) 中小企業 500万円(2/3) その他 500万円(1/2) (重点テーマ) 中小企業 1,500万円(2/3) その他 1,500万円(1/2)	2年以内
成長分野新規参入支援事業		新たな分野への参入や新たな顧客開拓などに用いる「サンプル(試作品)製作費用」、「サンプル(試作品)を用いた商談や展示会出展に必要な経費」に対して補助金を交付	①市内中小企業 ②市内中堅企業	①200万円(2/3) ②200万円(1/2)	1年以内

FAIS助成制度の主な成果事例

平成26年度は、実用化研究から、評価・実証、実用化・製品化までの各ステージに合わせた四つの助成事業を実施し、37件のプロジェクトを支援しました。

◎運動競技場向け自動ライン引きロボットの研究開発



スポーツ競技において、競技場に引くラインが正確な直線かどうかは、時に勝敗を左右する重要な要素です。正確な直線を引く作業には、熟練の技術が必要ですが、これにあたる人員は高齢化が進みつつあります。

九州工業大学とアダチスポーツは、FAISの研究開発助成制度を活用し、カメラと通信技術を使って熟練者と同等な速度で正確なライン引きを実現する「自動ライン引きロボット」の開発に取り組みました。

野球場で行った実証実験では、100m近い直線を正確に引くことに成功し、その様子はメディアでも取り上げられました。今後は速度向上・低コスト化を図り、2017年の製品化を目指しています。

【事業名】 平成26年度新成長戦略推進研究開発事業
(研究開発プロジェクト創出・育成)

【申請企業】 (株)アダチスポーツ

◀自動ライン引きロボット実証実験の様子

◎生化機能性材料による新規化粧品及び食品



▲PD膜分離法による生プラセンタから生まれた化粧品C6シリーズ

市内企業が自らの技術力を活かして行う、新たな分野への参入や新たな顧客の開拓を支援するため、「試作品の製作」および「商談」に関する費用を助成しました。

本例は、独自のPD膜分離技術により、世界で初めてプラセンタの非加熱無菌化に成功し、新たな化粧品、食品を開発した企業に助成したものです。

生のプラセンタは、健康面だけでなく美容面でもさまざまな効果が期待されるものであり、本事業を利用して化粧品の試作を実施、各方面へ幅広く展開を図っていくきっかけをつくりました。

【事業名】 平成26年度成長分野新規参入支援事業
【申請企業】 (株)FILTOM

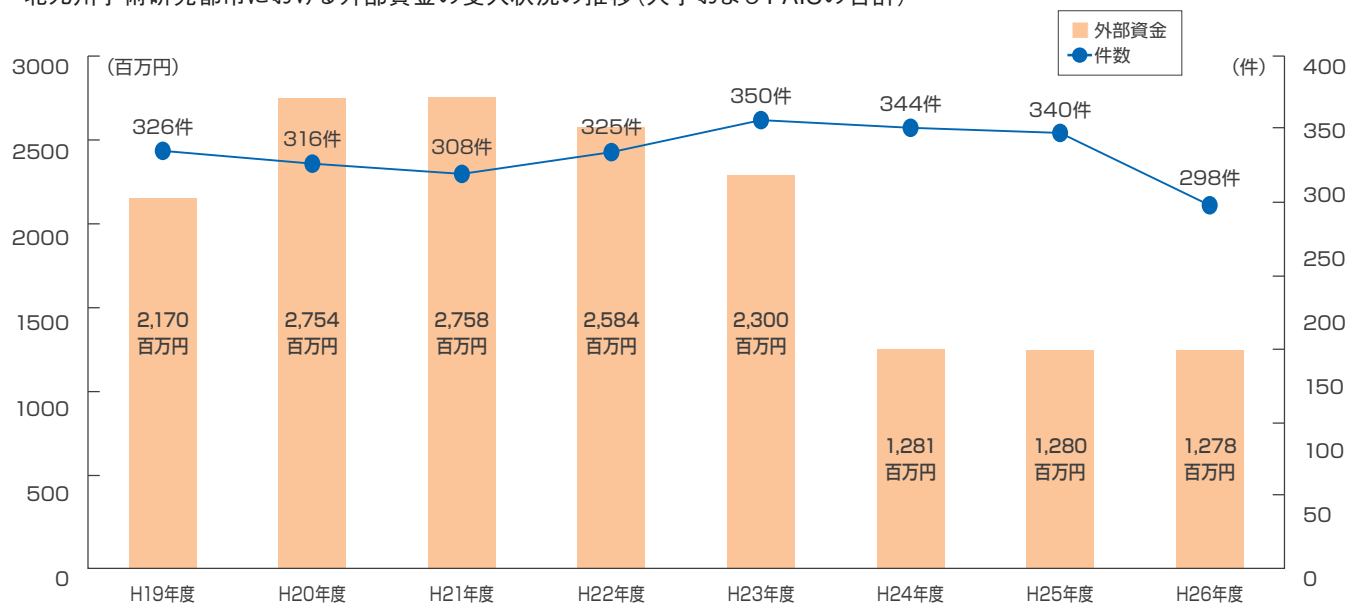
国等の資金を活用した研究開発プロジェクトの推進

「戦略的基盤技術高度化支援事業（経済産業省）」や「地域イノベーション戦略支援プログラム（文部科学省）」等、国等の資金を活用した産学連携の研究開発プロジェクトを積極的に実施しています。

平成26年度は、各大学における受託研究等と合わせて約300件のプロジェクトに取り組みました。

外部資金の積極的な獲得

北九州学術研究都市における外部資金の受入状況の推移（大学およびFAISの合計）



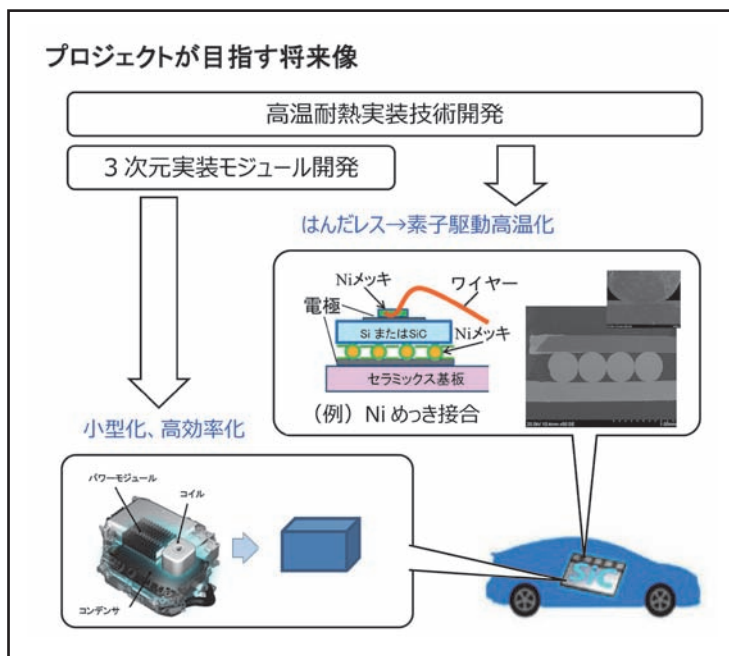
これまでに実施した主な研究開発プロジェクト

◎主なプロジェクト

経済産業省	
地滑り・公共インフラ老朽化監視用低コスト・多機能・高精度計測システムの研究開発 【戦略的基盤技術高度化支援事業】	24年度～26年度 約1億円
エネルギー社会に対応したパワーデバイスの高信頼性を確保する超小型電流センサー 及び製造ライン向け検査装置の開発 【戦略的基盤技術高度化支援事業】	24年度～26年度 約1億円
非常用電源としてのマグネシウム空気電池を実現する難燃性マグネシウム合金鋳造薄板による革新的電極素材の開発 【戦略的基盤技術高度化支援事業】	25年度～27年度 8千万円
SiCセラミックスの大幅適用拡大の為に新規2段反応焼結法（接合・精密加工技術）の開発 【戦略的基盤技術高度化支援事業】	26年度～28年度 約5千万円
NEDO	
広域対象のPVシステム汎用リサイクル処理手法に関する研究開発 【太陽光発電システム次世代高性能技術の開発】	22年度～26年度 約5.2億円
JICA	
インドネシア・バリクパパン市における泥炭・森林火災の消火技術普及モデル事業 【草の根技術協力事業地域経済活性化特別枠】	25年度～27年度 6千万円
全国中小企業団体中央会	
竹・プラスチックコンポジット材を活用した事業の推進 【ものづくり中小企業・小規模事業者連携支援事業】	26年度～28年度 360万円

FAISが支援した研究開発プロジェクトの主な事例

◎ハイブリッド自動車向けSiC耐熱モジュール実装技術の研究開発



▲SiC耐熱モジュールによって実現するハイブリッド自動車の姿

次世代パワー素子のSiC（炭化ケイ素）は、低損失、高耐圧性能等の優れた特性から、各研究機関・企業で熾烈な開発競争が行われています。その中で、北九州学術研究都市の研究シーズ技術である高温インタコネクション技術、パッケージング技術を活用することによりSiCの特徴を最大限に活用したインバータシステムを実現できる可能性が認められ、内閣府SIPパワエレの開発テーマに採択されました。（プロジェクトリーダー；早稲田大学 巽宏平教授）

FAISは、プロジェクト全体のマネジメントとSiCモジュールの統合設計を担当、推進しています。

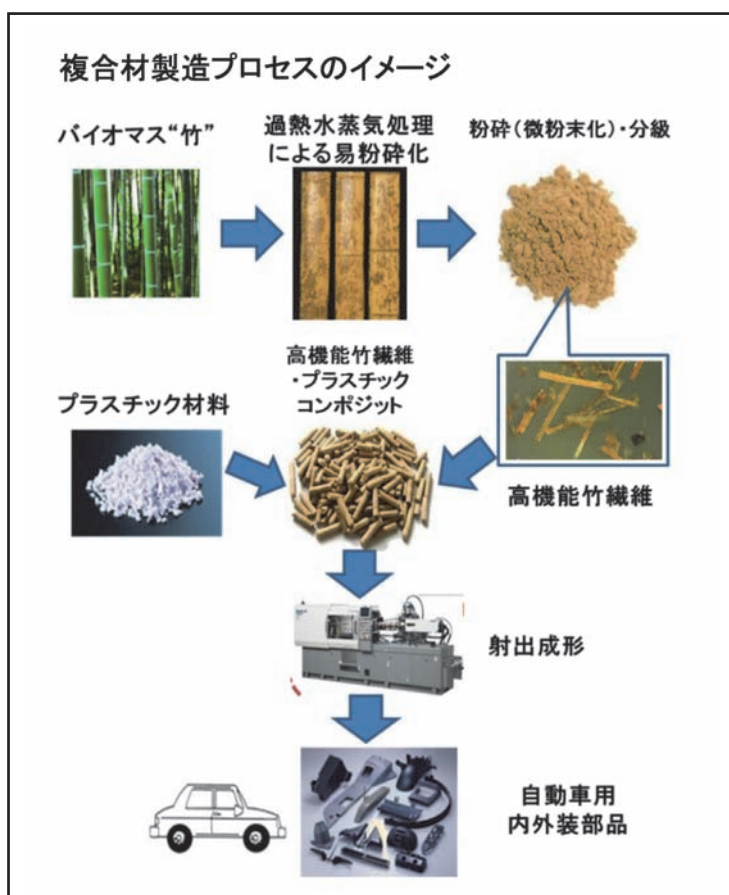
現在は各構成要素技術の基本成立性確認が完了した段階で、今後SiCモジュールの試作・特性検証を推進していきます。

【事業名】 内閣府 戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）／次世代パワーエレクトロニクス

【参画機関】 早稲田大学、九州工業大学、トヨタ自動車（株）、（株）デンソー、（株）三井ハイテック、（株）ウォルツ、FAIS

【事業期間】 平成26年度～30年度

◎高機能竹繊維を使った低炭素型軽量強化プラスチックコンポジットの開発



自動車メーカーにおける「低炭素」、「低コスト」、「高性能」な部品素材のニーズに応えるため、カーボンニュートラルで安価なバイオマス『竹』から取り出した繊維とプラスチックの複合材（コンポジット）の成型加工技術の確立に取り組みました。

その結果、開発した複合材による自動車部品の試作に成功し、自動車メーカー、自動車部品メーカーおよび建材メーカーの引き合いが多数寄せられました。

FAISは事業管理機関として、研究開発計画の運営管理、参画機関相互の調整等を実施し、プロジェクトの前進に大きな役割を果たしました。

現在、複合材の強度向上や竹繊維の安定供給システムの確立を目指した研究を進行しています。

【事業名】 経済産業省

戦略的基盤技術高度化支援事業

【参画機関】 石川金属工業（株）、環境テクノス（株）

【事業期間】 平成23年度～25年度

地域イノベーション戦略支援プログラム(平成24年度～28年度)

地域イノベーション戦略支援プログラムとは

地域イノベーション戦略支援プログラムは、地域イノベーション戦略推進地域に選定された地域のうち、文部科学省による支援が地域イノベーション戦略の実現へ大きく貢献すると認められる地域に対して、知的財産の形成や人材育成など、地域の主体的な活動展開に対する支援を行う事業です。

平成23年8月に地域イノベーション戦略推進地域(国際競争力強化地域)の指定を受けた福岡・北九州地域では、福岡県、福岡市、北九州市、地域の大学等研究機関、金融機関、(財)福岡県産業・科学技術振興財団、FAIS等で構成する「福岡イノベーション推進協議会」により、事業プログラムを提案し、平成24年6月に正式採択され事業が開始されました。

FAISは、(公財)福岡県産業・科学技術振興財団等と連携し、これまで知的クラスター創成事業等で創出した研究成果の事業化に取り組むとともに、「高度情報化社会」「低炭素社会」「健康・長寿社会」等、次世代の社会システムに必要な技術・製品の創出に取り組んでいます。

地域イノベーション戦略支援プログラムの取り組み

第Ⅰ期 平成14年度～18年度 知的クラスター創成事業

第Ⅱ期 平成19年度～23年度 知的クラスター創成事業

平成22年度は「地域イノベーションクラスタープログラム」、

平成23年度からは「地域イノベーション戦略支援プログラム」に名称変更

地域イノベーション戦略支援プログラムの研究テーマ

No.	研究テーマ名	研究代表者
1	有事対応型情報プラットフォームの開発	九州大学 安浦 寛人 教授
2	複合型社会情報基盤システムの信頼性・安全性保証技術の研究開発	九州大学 福田 晃 教授
3	高性能無線バックホール	九州大学 古川 浩 教授
4	次世代窒化ガリウム(GaN)パワー半導体による革新的ワイヤレス・エネルギー供給技術開発と照明への応用	九州工業大学 大村 一郎 教授
5	MEMSを利用した細胞解析デバイスの開発	九州工業大学 安田 隆 教授
6	超低電力アナログLSIの高信頼設計技術に関する研究	北九州市立大学 中武 繁寿 教授
7	新規高輝度LED利用による省エネルギー・超高集約型植物栽培システムの開発	北九州市立大学 河野 智謙 教授
8	高機能・高信頼性モジュールのための、高付加価値インターポーザーに関する研究	福岡大学 友景 肇 教授
9	3次元LSIによる画像処理チップの研究	早稲田大学 後藤 敏 教授
10	次世代画像符号化(HEVC)の低消費電力化の研究	早稲田大学 後藤 敏 教授
11	CPS(Cyber-Physical System)構築に向けたSSSoC(Smart Sensor SoC)利活用技術の開発	(財)九州先端科学技術研究所 村上 和彰 副所長

※ は北九州市内研究者のテーマ

技術拠点化の推進

半導体技術拠点化の推進

半導体・エレクトロニクス関連企業支援

半導体設計ツールやIC・MEMS微細加工装置、評価・解析機器を整備し、半導体・エレクトロニクス関連企業に対して、設計から製造、評価・解析までの一貫した設備環境を提供し、北九州市における半導体産業の振興に努めています。

■半導体設計環境の提供

回路設計、レイアウト設計、シミュレーター、検証等、大手EDAベンダの半導体設計ツールなど、一貫した設計環境を提供し、新たなアプリケーション創出に向けたサポートを実施しています。

■IC・MEMS微細加工環境の提供

共同研究開発センターの微細加工設備をベースに、IC・MEMSの微細加工プロセスの提供を行っており、文部科学省所管のナノテクノロジープラットフォームの一員として、「微細加工」分野の学術的な基礎研究から産業界における研究開発まで幅広く、大学、企業、研究機関などを支援しています。

■半導体評価・解析環境の提供

信号発生器や波形分析器等の評価機器、X線透視装置やマイクロスコップ等の解析機器など、充実した評価・解析環境を提供しているほか、ひびきのLEDアプリケーション創出協議会などの研究グループに対し技術サポート等を実施しています。

第5回 ひびきのLEDアプリケーション創出協議会開催

平成27年2月6日、「第5回ひびきのLEDアプリケーション創出協議会」・第134回ひびきのサロンが同日開催され、106名が参加しました。

当協議会は、平成23年2月に設立され、学術研究都市発の新アプリケーション事業の創出、地域企業のLEDアプリケーション事業への参入促進等を目指して活動を行っています。



第5回 ひびきのLEDアプリケーション創出協議会

●平成27年4月1日現在 会員数：129名、登録研究グループ：約20件

半導体技術者育成講座(ひびきの半導体アカデミー)の開催

半導体技術者育成講座「ひびきの半導体アカデミー」では、半導体・エレクトロニクス関連企業の技術者などを対象として、社会や産業界に貢献するアプリケーションを創出するための知的基盤や技術力・研究開発力の向上等につながるプログラムを提供しています。

当アカデミーは、学研都市開設以来、これまでに累計約4,900名の方に受講いただき、数多くの半導体技術者を輩出しています。

●平成26年度：講座数 14講座、参加者数 337名

講座風景



LED駆動技術実習講座



半導体の故障解析講座

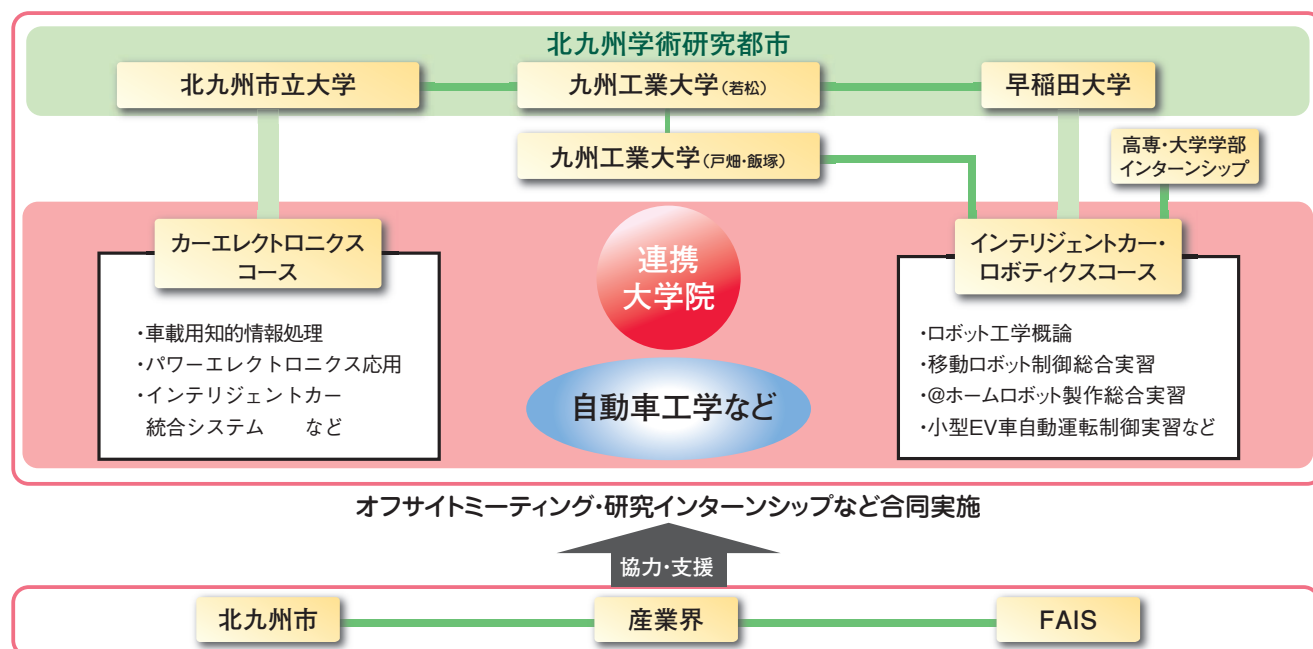
自動車技術拠点化の推進

近年、自動車の電子制御化を支える技術者の育成が急務となっていることから、「カー・エレクトロニクスセンター（現 自動車技術センター）」を開設し、北九州学術研究都市3大学による連携大学院の運営を支援するとともに、学研都市進出大学と自動車関連企業との共同研究開発を促進し、カーエレクトロニクスを中心とした自動車技術の拠点化に向けた取り組みを進めています。

人材育成の推進

北九州学術研究都市に立地する3大学（北九州市立大学・九州工業大学・早稲田大学）が開設した連携大学院「カーエレクトロニクスコース（平成21年4月開設）」と「インテリジェントカー・ロボティクスコース（平成25年4月開設）」の運営支援を行い、次世代を担う実践的な高度人材の育成に取り組んでいます。

また、市新成長戦略の柱の一つである次世代自動車産業拠点の形成に向け、次世代自動車に関する勉強会を開催し、地域企業の自動車産業への参入に向けた機会を提供しております。



（修了生就職先抜粋：トヨタ自動車(株)、日産自動車(株)、マツダ(株)、三菱自動車工業(株)、(株)デンソー、アイシン精機(株)、富士通テン(株) 等）

研究開発の支援

自動運転・安全運転支援技術など、北九州学術研究都市の研究シーズを活かした特色ある研究開発の取組みを推進し、これにより次世代自動車技術に関する拠点化を目指します。

【ニーズ・シーズマッチング会】

企業ニーズと大学シーズのすり合わせを行うために、コーディネーターが仲介し、7件のニーズ・シーズマッチング会を実施しています。

【研究会】

●平成26年度事例／「自動車の自律走行」「高温実装・材料技術」などをテーマに3研究会。

【研究開発プロジェクト】

自動車関連企業からのニーズが強く、実効性の高い研究テーマについて、公的資金の獲得などにより、共同研究を実施しています。

●平成26年度事例／ハイブリッド自動車向けSiC耐熱モジュール実装技術の研究開発



超小型EV自律走行デモの様子
（九州・ひびきの自律走行研究会）

ロボット技術開発拠点化の推進

北九州市のロボット産業振興のため、「市内ロボット関連企業と大学・研究機関との連携促進・技術コーディネート」「ロボット開発プロジェクトの立ち上げと実証・事業化支援」「市内企業への産業用ロボット導入支援」「ロボット技術人材育成」などを行っています。

豊富な実証データと
ノウハウを有する

ロボット 実証拠点

域外や自動車等の
他産業へ技術や
製品を供給する

ロボット 技術拠点

ロボットを用いた
サービス等のビジネス
モデルが生まれる

ロボット 開発拠点

多くの企業や
大学等の集積による

ロボット 人材拠点

【これまでの成果】

管渠検査ロボット“もぐりんこ”の開発

●株式会社石川鉄工所 ●FAIS

・下水道管渠スクリーニング検査(下水道管を走行し、管内の映像を録画する)を実施する低価格ロボット

事業化済(平成19年8月)発売

“ハイパーもぐりんこ”(平成21年)、“もぐりんこマックス”(平成24年)市場投入



鉄道車両自動洗浄ロボットの開発

福岡県ロボット産業振興会議(環境配慮型ロボット及び医療福祉ロボット等開発支援事業)

●九州工業大学 ●八祥産業株式会社 ●(有)ICS SAKABE ●FAIS

鉄道車両側面に均一に洗浄剤を噴射する泡塗布ロボットと洗浄ブラシロボットにより、車両両面の洗浄を行うシステム。H28年度の実用化を目指す。



運動競技場用自動ライン引きロボットの開発(新成長戦略推進研究開発事業)

●九州工業大学 ●株式会社アダチスポーツ ●株式会社石川鉄工所 ●株式会社TFプランニング ●FAIS

ビジョンシステムと通信、制御技術を用い、運動競技場のラインを自動で引くロボットを開発した。実証実験での課題を改善し、H28年の事業化を目指す。



研究開発

産業用ロボット導入支援センター

ロボット導入による市内企業の生産性向上・ものづくり力強化を目的にロボット導入を総合的に支援します。

支援内容

●導入に関する窓口相談 ●ロボット道場での人材育成 ●ロボット導入に関する情報発信

H26年度の成果

・企業訪問・技術相談 215件 ・産業用ロボット導入支援件数 5件

・ロボット道場 5回実施 ・システムインテグレーター育成セミナー1回実施



ロボット道場

研究開発

ひびきの高度ものづくり実践人材育成事業～ひびきのハイテクチャレンジ～

ものづくりを担う高度人材の発掘・育成！

ひびきのハイテクチャレンジは、将来の創造的・革新的なものづくり技術を担っていく高度人材を発掘、育成するためのプログラムです。大学・大学院等の学生による自由で自主的なアイデア・企画から、技術研究開発までの実践活動の支援をしています。



RoboCup
サッカーロボット



RoboCup
@Home



全方向
移動台車



PICを用いた
イルミネーション



窓清掃ロボット



学生フォーミュラ



環境配慮型茶室

人材育成

中小企業・ベンチャー企業の総合的支援

中小企業の総合的支援

中小企業の経営支援

◎総合相談・休日創業相談の実施

中小企業診断士等の専門家を窓口配置し、市内中小企業が抱える様々な相談に対応しています。また、平日に来訪が困難な創業予定者には、休日（土・日）相談を実施しています。

●平成26年度実績／総合相談件数677件、休日創業相談2件

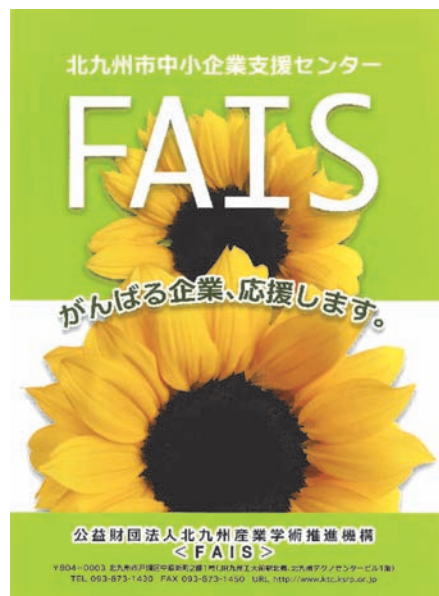
直接企業に出向いて様々な相談に応じる巡回専門相談員を配置し、訪問企業に対し支援メニューや支援担当部署等の紹介をしています。

●平成26年度実績／282社

◎専門家の派遣

経営革新等に積極的に取り組もうとする中小企業に対し、専門家（登録216名）を派遣して支援をしています。

●平成26年度実績／37件、129回



◎創業支援の実施

開業資金の調達や事業計画の策定など創業に関する相談や創業セミナーを開催することにより、創業希望者に対し開業までの支援を行っています。

●平成26年度実績／創業35件

◎マッチングコーディネートの実施

幅広い人脈を持つマッチングコーディネーターがものづくり企業の取引先や提携先を紹介し、販路開拓を支援します。さらに、地場企業の取引拡大・受注機会増大を目的とした商談会も開催しています。

●平成26年度実績／マッチング件数87件、成約件数14件、商談会開催4回

自動車産業への参入・事業拡大支援

◎自動車産業振興事業

市内中小企業の自動車産業への新規参入や事業拡大を促進するため、技術向上や人材育成に対する助成を行っています。

●平成26年度実績／助成3件

知的所有権の活用支援

◎知的所有権センターの運営

市内中小企業の新技術・新製品開発や新たな特許取得等を促進するため、知的財産権に関する相談・指導や特許活用等の支援を行っています。

●平成26年度実績／発明相談会46回、特許活用(成約)1件、企業相談・指導406件

ベンチャー企業の創出・育成

ベンチャー企業の成長支援

◎インキュベーションオフィス「北九州テレワークセンター」の運営

小倉駅北口のAIMビルに設置されたインキュベーション施設「北九州テレワークセンター」について、北九州市から指定管理者としての指定を受け(平成25年度～29年度)、情報通信技術を活用して新たなビジネスを展開しようとするベンチャー企業に対してオフィスを提供しています。

●平成26年度／入居企業数25社



北九州テレワークセンター



「インキュベーション」とは

「ビジネスインキュベーション」の略語で、一般的には「企業ふ化」などと訳されています。当財団では、「新事業創出のための支援」と定義しています。つまり、「ふ化器」にあたるインキュベーション施設で、起業家の皆様をサポートするシステムのことです。

◎市内のインキュベーション施設

「北九州テレワークセンター」(IT系ベンチャー企業向け)

「九州ヒューマンメディア創造センター エムサイト AIM」(コンテンツ系ベンチャー企業向け)

「北九州テクノセンター」(サービス系ベンチャー企業向け)

「北九州市立起業家支援工場」(ものづくり系ベンチャー企業向け)

「北九州学術研究都市 産学連携施設」(大学発ベンチャー企業向け)



九州ヒューマンメディア創造センター エムサイト AIM



北九州テクノセンター



北九州市立起業家支援工場



北九州学術研究都市 産学連携施設(事業化支援センター)

◎ベンチャー企業への集中支援

インキュベーションマネージャーが専門家とも連携して、インキュベーション施設の入居企業に対し、

- ①経営ノウハウの提供、各種支援メニューの紹介
- ②経営力・技術力向上に向けた各種相談・セミナー等の実施
- ③ベンチャー企業が開発した商品・サービスの市場調査・分析や販路開拓支援などの支援を行い、売上等の増加に繋がっています。

◎北九州ベンチャーイノベーションクラブ(通称:KVIC)の運営

北九州市の新産業および雇用の創出に向けて、ベンチャー企業支援ネットワーク『北九州ベンチャーイノベーションクラブ』を運営し、ビジネスマッチングなどの事業を展開しています。



KVICフェア

財団運営

評議員名簿

(平成27年6月末日現在)

五十音順

氏名	役職名
牛島 英典	福岡県商工部新産業振興課長
梅本 和秀	北九州市副市長
坂本 満	産業技術総合研究所九州センター所長
自見 榮祐	(一社)北九州中小企業団体連合会会長
塚本 寛	北九州工業高等専門学校長
西原 達次	九州歯科大学長
東 敏昭	産業医科大学長
松本 豊	(公社)九州機械工業振興会会長
(欠 員)	

役員名簿

(平成27年6月末日現在)

五十音順

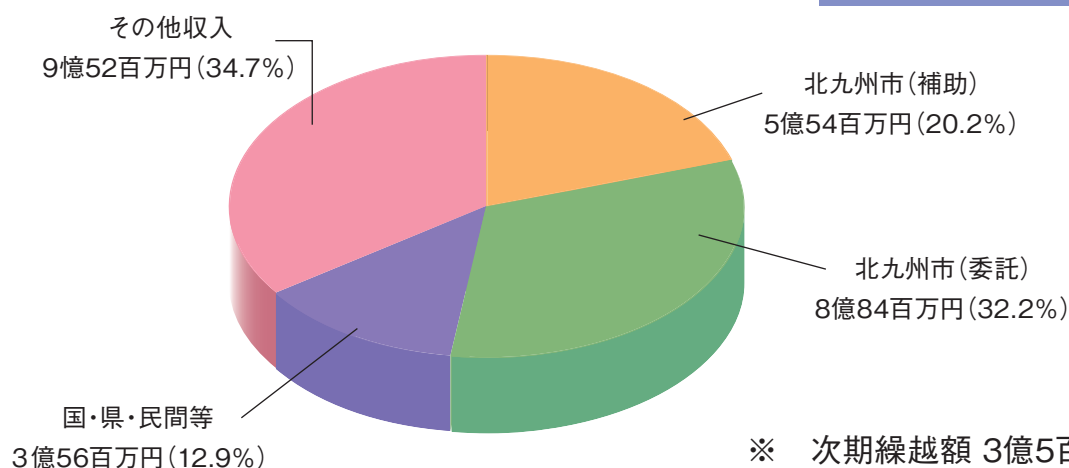
役員の種類	氏名	役職名
理事長	國武 豊喜	(公財)北九州産業学術推進機構
副理事長	重松 崇	(公財)北九州産業学術推進機構
専務理事	松岡 俊和	(公財)北九州産業学術推進機構
理事	大川 博己	北九州市産業経済局企業立地・食ブランド推進担当理事
//	鹿毛 浩之	九州工業大学副学長
//	梶原 昭博	北九州市立大学副学長
//	高橋 孝司	(公財)九州ヒューマンメディア創造センター理事長
//	利島 康司	北九州商工会議所会頭
//	橋本 周司	早稲田大学副総長
監事	定野 敏彦	(株)西日本シティ銀行取締役常務執行役員北九州総本部長
//	松原 英治	北九州市会計室長

平成26年度 決算資料

収入および支出内訳

<収入>

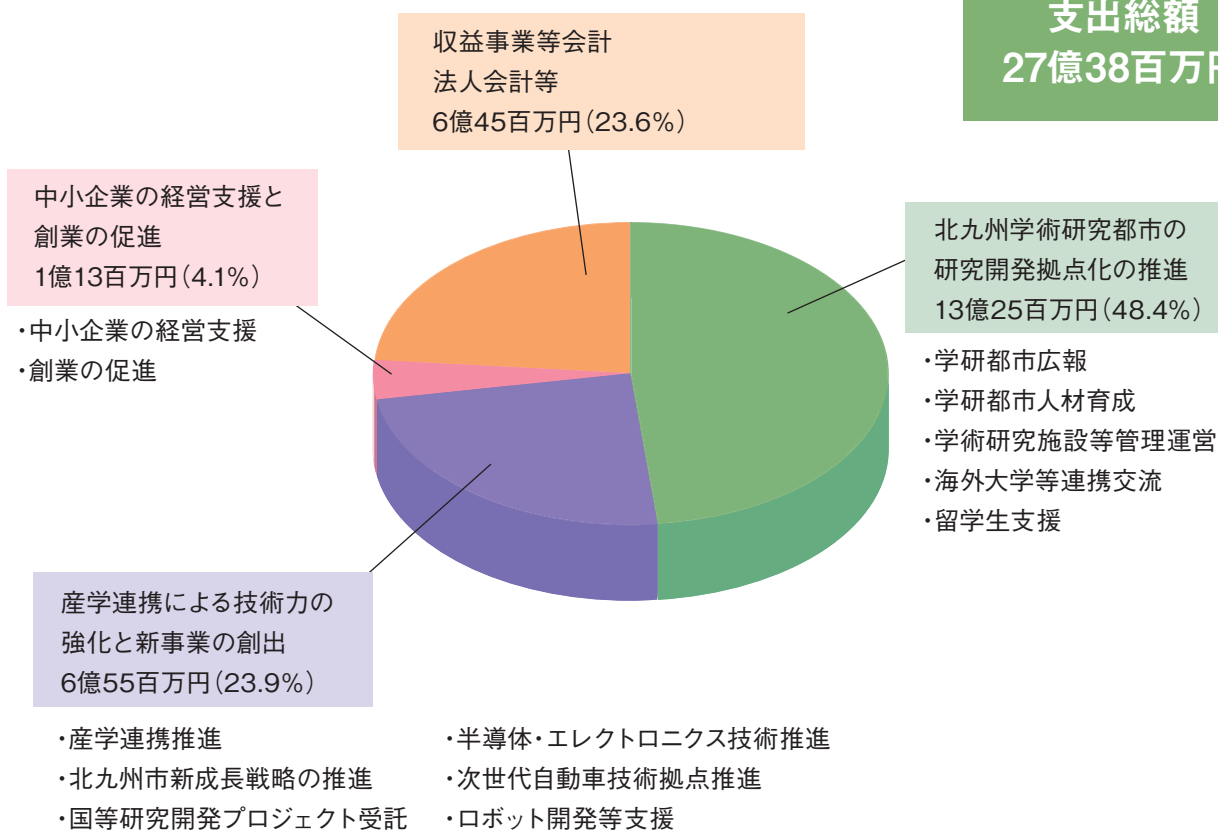
収入総額
27億46百万円



※ 次期繰越額 3億5百万円

<支出>

支出総額
27億38百万円



貸借対照表

平成27年3月31日現在

(単位：円)

科目	平成26年度	平成25年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	245,266,324	249,339,673	△ 4,073,349
未収金	323,294,490	359,470,374	△ 36,175,884
流動資産合計	568,560,814	608,810,047	△ 40,249,233
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
投資有価証券	198,898,278	459,332,993	△ 260,434,715
普通預金	434,722	7	434,715
定期預金	667,000	340,667,000	△ 340,000,000
基本財産合計	200,000,000	800,000,000	△ 600,000,000
(2) 特定資産			
留学生支援事業積立資産	6,811,966	11,530,355	△ 4,718,389
学研都市充実強化積立資産	9,636,411	9,636,411	0
特定プロジェクト支援積立資産	28,039,788	28,039,788	0
特定資産合計	44,488,165	49,206,554	△ 4,718,389
(3) その他固定資産			
車両運搬具	332,800	533,200	△ 200,400
機械設備	81,694,879	3	81,694,876
什器備品	7,638,233	10,708,458	△ 3,070,225
無形固定資産	112,111,068	128,777,716	△ 16,666,648
リース資産	1,144,500	2,921,100	△ 1,776,600
電話加入権	1,000	1,000	0
その他固定資産合計	202,922,480	142,941,477	59,981,003
固定資産合計	447,410,645	992,148,031	△ 544,737,386
資産合計	1,015,971,459	1,600,958,078	△ 584,986,619
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	257,068,497	281,699,855	△ 24,631,358
前受金	3,000	39,000	△ 36,000
預り金	6,503,520	29,613,432	△ 23,109,912
流動負債合計	263,575,017	311,352,287	△ 47,777,270
2. 固定負債			
長期リース債務	1,144,500	2,921,100	△ 1,776,600
固定負債合計	1,144,500	2,921,100	△ 1,776,600
負債合計	264,719,517	314,273,387	△ 49,553,870
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
北九州市補助金	45,574,904	37,774,142	7,800,762
寄付金	200,000,000	800,000,000	△ 600,000,000
指定正味財産合計	245,574,904	837,774,142	△ 592,199,238
(うち基本財産への充当額)	(200,000,000)	(800,000,000)	(△ 600,000,000)
2. 一般正味財産	505,677,038	448,910,549	56,766,489
(うち特定財産への充当額)	(44,488,165)	(49,206,554)	(△ 4,718,389)
正味財産合計	751,251,942	1,286,684,691	△ 535,432,749
負債及び正味財産合計	1,015,971,459	1,600,958,078	△ 584,986,619

正味財産増減計算書

平成26年4月1日から平成27年3月31日まで

(単位：円)

科目	平成26年度	平成25年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
①基本財産運用益			
基本財産受取利息	1,568,948	3,796,596	△ 2,227,648
②事業収益			
北九州市受託事業収益	883,726,440	1,150,449,372	△ 266,722,932
国受託事業収益	75,895,803	163,688,168	△ 87,792,365
その他受託事業収益	193,077,387	174,497,639	18,579,748
T L Oライセンス事業収益	7,290,235	3,780,929	3,509,306
その他事業収益	344,351,184	39,080,172	305,271,012
収益事業等会計収益	18,750,213	17,827,910	922,303
③受取補助金等			
受取北九州市補助金	545,863,108	589,918,898	△ 44,055,790
受取福岡県補助金	1,078,450	3,074,448	△ 1,995,998
受取国庫補助金	44,531,039		44,531,039
受取その他補助金	8,622,264	8,981,269	△ 359,005
④受取寄付金			
受取寄付金	960,000		960,000
⑤雑収益			
受取利息	2,026,321		2,026,321
雑収益	1,006,683	1,353,419	△ 346,736
経常収益計	2,128,748,075	2,156,448,820	△ 27,700,745
(2) 経常費用			
①事業費			
役員報酬	13,142,100	12,831,180	310,920
給与	255,513,680	280,215,876	△ 24,702,196
福利厚生費	53,819,326	59,504,977	△ 5,685,651
会議費	867,503	1,751,440	△ 883,937
渉外費	791,192	1,703,022	△ 911,830
旅費交通費	20,092,483	25,751,417	△ 5,658,934
通信運搬費	11,589,768	13,418,860	△ 1,829,092
減価償却費	22,645,772	20,109,813	2,535,959
消耗品費	21,307,931	22,773,977	△ 1,466,046
修繕費	63,865,383	54,046,063	9,819,320
印刷製本費	1,886,824	1,734,181	152,643
新聞図書費	4,776,512	4,856,378	△ 79,866
燃料費	425,233	623,128	△ 197,895
光熱水費	251,195,957	238,318,092	12,877,865
賃借料	162,086,245	156,883,070	5,203,175
保険料	1,333,189	2,494,900	△ 1,161,711
諸謝金	43,447,839	48,017,746	△ 4,569,907
租税公課	15,264,369	10,424,580	4,839,789
委託費	886,018,910	942,733,129	△ 56,714,219
支払負担金	88,270,051	85,386,593	2,883,458
支払助成金	178,352,573	154,360,038	23,992,535
ライセンス料	2,094,777	2,326,199	△ 231,422
支払手数料	990,944	764,875	226,069
奨学金	15,060,000	17,100,000	△ 2,040,000
雑費	1,630,332	595,310	1,035,022

科目	平成26年度	平成25年度	増減
②管理費			
役員報酬	4,380,700	4,277,060	103,640
給与	6,723,602	3,448,833	3,274,769
福利厚生費	1,052,108	563,256	488,852
会議費	42,506	21,680	20,826
渉外費	26,006	142,424	△ 116,418
旅費交通費	1,461,420	2,177,660	△ 716,240
通信運搬費	152,421	145,604	6,817
減価償却費	1,130,800	1,195,480	△ 64,680
消耗品費	505,287	658,717	△ 153,430
修繕費	74,000		74,000
印刷製本費	204,120	331,800	△ 127,680
新聞図書費	291,822	305,896	△ 14,074
燃料費	462,030	544,173	△ 82,143
光熱水費	76,343	72,385	3,958
賃借料	3,582,785	3,707,885	△ 125,100
保険料	190,460	177,090	13,370
諸謝金	488,400	1,050,000	△ 561,600
租税公課	△ 11,869	24,520	△ 36,389
委託費	1,705,132	1,061,562	643,570
支払負担金	679,390	571,562	107,828
支払手数料	796,542	867,538	△ 70,996
雑費	5,450	4,415	1,035
経常費用計	2,140,488,348	2,180,074,384	△ 39,586,036
当期経常増減額	△ 11,740,273	△ 23,625,564	11,885,291
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
①固定資産受贈益			
機械設備受贈益	84,503,162		84,503,162
②受取寄付金振替額			
受取寄付金振替額	600,000,000		600,000,000
経常外収益計	684,503,162	0	684,503,162
(2) 経常外費用			
①除却損失			
什器備品除却損	22,217	112,827	△ 90,610
無形固定資産除却損	14,829,183	28,131,173	△ 13,301,990
②支払寄付金			
支払寄付金	600,000,000		600,000,000
経常外費用計	614,851,400	28,244,000	586,607,400
当期経常外増減額	69,651,762	△ 28,244,000	97,895,762
他会計振替額	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	57,911,489	△ 51,869,564	109,781,053
法人税・住民税及び事業税	1,145,000	1,278,000	△ 133,000
当期一般正味財産増減額	56,766,489	△ 53,147,564	109,914,053
一般正味財産期首残高	448,910,549	502,058,113	△ 53,147,564
一般正味財産期末残高	505,677,038	448,910,549	56,766,489
II 指定正味財産増減の部			
受取北九州市補助金	13,934,093	22,258,528	△ 8,324,435
基本財産受取利息	1,568,948	3,796,596	△ 2,227,648
一般正味財産への振替額	△ 607,702,279	△ 9,810,438	△ 597,891,841
当期指定正味財産増減額	△ 592,199,238	16,244,686	△ 608,443,924
指定正味財産期首残高	837,774,142	821,529,456	16,244,686
指定正味財産期末残高	245,574,904	837,774,142	△ 592,199,238
III 正味財産期末残高	751,251,942	1,286,684,691	△ 535,432,749

アクセスマップ

北九州学術研究都市

●キャンパス運営センター

●産学連携統括センター

ものづくり革新センター

半導体・エレクトロニクス技術センター

自動車技術センター

ロボット技術センター

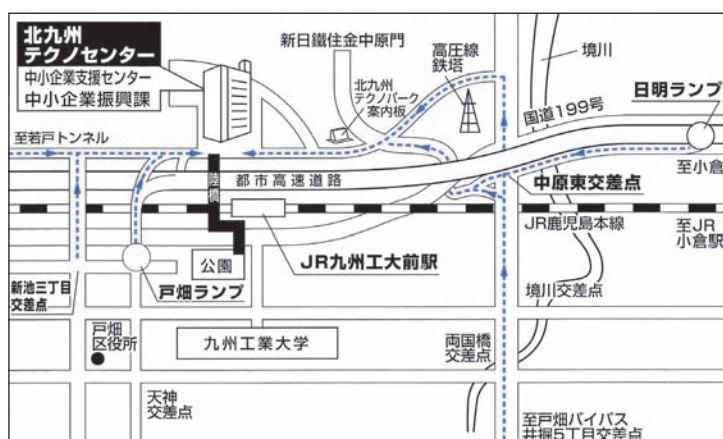


- 【公共交通機関の場合】
- ◎JR折尾駅西口バス停 → 市営バス → 学研都市ひびきの ※所要時間約15分
 - ◎JR黒崎駅バス停 → 市営バス・西鉄バス → 学研都市ひびきの ※所要時間約30分
 - ◎北九州空港バス停 → 市営バス → 学研都市ひびきの ※所要時間約70分
- 【車をご利用の場合】
- ◎北九州都市高速道路 黒崎出入口 ※北九州都市高速道路黒崎出入口からの所要時間約20分
 - ◎小倉都心 → 北九州都市高速道路 東田出入口 → 黒崎バイパス 皇后崎ランプ → 学研都市ひびきの ※所用時間小倉都心から約30分

北九州テクノセンタービル

●中小企業支援センター

中小企業・ベンチャー支援部経営支援課



- ◎JR九州工大前駅下車北側へ徒歩3分
- ◎小倉方面から
国道199号中原東交差点よりテクノパークへ入る
- ◎戸畑方面から
北九州都市高速戸畑ランプへ向かってJR線をまたぐ高架を上り、料金所直前で左折してテクノパークへ入る（一方通行）

アジア太平洋インポートマート(AIM)

●中小企業支援センター

中小企業・ベンチャー支援部ベンチャー支援課



- ◎JR小倉駅・北九州モノレール小倉駅から
徒歩5分(ペDESTリアンデッキでウォークイン)
- ◎北九州空港から:車で約30分、エアポートバスで55分
- ◎北九州都市高速道路:小倉駅北ランプから車で3分
- ◎福岡空港から:地下鉄、新幹線で40分



ご連絡・お問い合わせは 公益財団法人 北九州産業学術推進機構 (FAIS) の各センターへ

【北九州学術研究都市ホームページ】 <http://www.ksrp.or.jp/>

【公益財団法人 北九州産業学術推進機構 (FAIS) ホームページ】 <http://www.ksrp.or.jp/faiss/>

北九州学術研究都市に関する全般的なお問い合わせ		E-mail / info@ksrp.or.jp
キャンパス運営センター	北九州学術研究都市内 産学連携センタービル1階 〒808-0135 北九州市若松区ひびきの2-1	TEL 093-695-3111 FAX 093-695-3010
大学の研究内容の活用、産学連携に関するお問い合わせ		E-mail / iac@ksrp.or.jp
産学連携統括センター	北九州学術研究都市内 産学連携センタービル2階 〒808-0135 北九州市若松区ひびきの2-1	TEL 093-695-3006 FAX 093-695-3018
「革新的ものづくり」活動の支援、その他研究開発プロジェクト等に関するお問い合わせ		E-mail / iac@ksrp.or.jp
ものづくり革新センター	北九州学術研究都市内 産学連携センタービル2階 〒808-0135 北九州市若松区ひびきの2-1	TEL 093-695-3006 FAX 093-695-3018
半導体関連の研究開発・人材育成等に関するお問い合わせ		E-mail / sec@ksrp.or.jp
半導体・エレクトロニクス技術センター	北九州学術研究都市内 技術開発交流センター1階 〒808-0135 北九州市若松区ひびきの北1-103	TEL 093-695-3007 FAX 093-695-3667
カー・エレクトロニクス事業における研究開発・人材育成等に関するお問い合わせ		E-mail / car@ksrp.or.jp
自動車技術センター	北九州学術研究都市内 技術開発交流センター1階 〒808-0138 北九州市若松区ひびきの北1-103	TEL 093-695-3685 FAX 093-695-3686
ロボット分野の研究開発・人材育成等に関するお問い合わせ		E-mail / robotics@ksrp.or.jp
ロボット技術センター	北九州学術研究都市内 技術開発交流センター1階 〒808-0138 北九州市若松区ひびきの北1-103	TEL 093-695-3085 FAX 093-695-3525
中小企業の経営、創業に関するお問い合わせ		E-mail / info@kic.ksrp.or.jp
中小企業支援センター	北九州テクノセンタービル1階 〒804-0003 北九州市戸畑区中原新町2-1	TEL 093-873-1430 FAX 093-873-1450